

猫 狸(中略)狸狸也、又云野狸、
倭言上尼古、下多々既、

〔下學集氣上〕狸變則
成豹

〔八雲御抄三〕下狸くさいなぎ ふるたぬき

〔倭訓栞前編十四〕たぬき中略 狸をよめり、此皮手貫によるしきをもて名を得る成べし、

〔瑤囊抄五〕タ、ゲノ筆ナンド云、タ、毛トハタヌキノ毛歟、狸ノ字ヲタ、ゲトヨム、又子コマ共ヨ

ム、只子コト同事也、狸タヌキニ用ハ僻事也、サレバ帝範ノ審官篇云、滌牛之昇不可處以烹雞、捕鼠狸

不可使之搏獸ト云リ、是賢愚大小器異ナル事ヲ、狸タヌキノ鼠ヲ得テトレバトテ自餘ノ獸ヲ不可搏喻

ヘタリ、可知猫也ト曰事ヲ、獸ヲ害スルヲバ搏ト云也、搏ハ補洛反、手撃ト註セリ、狸タヌキ猫キハ各別也、

狸ハ猫ナルベシ、サレバ大日經疏ニモ、六十心ノ狸心ノ下ニ如猫狸侍ベリ、明ケン、猫ト狸ケ同類

ト云事ゾ、

〔紀伊國續風土記物産十下〕狸タヌキ已又本草、總名、本草和名ニ多々介、和名鈔ニ太奴木、康賴本草に狸和名編

猫に狸、狸に野猫などの一名ある、各郡皆産す、
を以て混じ誤れるなり、○中略

〔新編常陸國誌六十四〕狸タヌキ

タヌキトモムチナトモ云、筑波郡狸淵村ハムジナフチトヨメリ、其性狐ニ類ス、人眼ヲ闇マシ形

容ヲ變化スルニ工、ミナルモノアリ、或ハ文字ヲ書スルモノアリ、

〔佐渡志五物産〕狸ハ方言ジウモンチ、稀ナリ、

〔本朝食鑑十〕狸

集解、狸處處有之、毛形似狐、雜黃黑、有斑如猫、而圓頭大尾、善竊雞鴨鳧類、食百果穀粟、其氣臊臭、又有

虎斑尖頭方口者、其肉不臭、可食、予必大野未見之、大抵狸面似猫、似狐妖怪亦相似、常掘土窟而隱棲、

冬春負暄、携子出穴、鼓腹而樂、故俗稱狸腹鼓、老者能變妖、食人若化作人容者、燒松杉葉而熏之、則露

狸性質
狸形態